

## 瀬戸内タウンミーティング議事録（牛窓地区）

平成 24 年 11 月 13 日（木）午後 7 時～午後 9 時

牛窓町公民館

参加者：男性 8 人、女性：3 人 合計 11 人

### 意見交換

- ・古紙の回収が始まって 1 年がたつ。市の回収分として出していたが、それが町内会の廃品回収に回されていた。特別な政党がからんでいるのではないか。自分達のためだけにやっているのではないか。ある程度の公正さがないと迷惑を被る。

（市長）確認してみる。

- ・自分のところは防犯灯を取り付けてもらってありがたい。ただ、オリーブ園にある LED 防犯灯が切れており、電気店に見てもらった結果、電線に樹木が接触し、炭化していた。もっと燃えていたら山火事の恐れもあったので、大変危険。枝を 10 メートル程度切ってもらったが、観光地でもあり、みっともない。県道沿いには柿が鈴なりになっていて、道路に落ちていたため、建設課から所有者に連絡をしてもらって片づけてもらったが、通学路でもあり、危険である。ツタが電線にからんだり、竹が繁茂したりしているが、牛窓は観光地であり、バス路線だけでも環境整備を行ってもらおうよう、建設課の巡回、県への協議等を検討してもらえないか。

（市長）重点箇所を決めて行う必要がある。メリハリをつけないと難しい。県道は県との協議が必要になる。錦海塩田の開発も含めて今後のイメージアップのためにも市ができることは検討していく。

- ・総合計画の審議委員をしていたが、職員の育成をどうしてきたのか、また、どうしていくのか。総合計画には、「人と自然が織りなす しあわせ実感都市瀬戸内」「市民の皆様を顧客としてとらえ」という記述があり、顧客志向として指導育成していくということだが、本編には、「未来に輝く人づくり」とある。市として関わるのは行政職員そのものだと思うが、職員が輝きながら仕事をしているのか、そういう体制をとっているのか、非常に疑問思う。どれくらいの職員がやりがいや誇りをもってやっているのか。そういうことが見えたら、自分たちも彼らと一緒にやっていこうという気になる。協働のパ-

トナーというのは上から目線だ。そうではなく、市民から学ぶということが必要ではないか。市長は大学院で学んでいて、知識とか、能力ということも大事と思っているかもしれないが、それより大事なのは人にサービスすることが一番ではないか。こういう不況のときでも市役所は安定している。権力を持っているからつい上から目線になる。そういう上司がずっといたら、若い人が生涯をかけてやっていこうと思っていても腐っていく。全員が悪いといっているのではない。市長も任期が残っているのであれば、研修等を行っていくべき。まじめにサービスをすることが報われる人事としてほしい。

(市長) 朝鮮通信使行列には感謝している。そのなかで、不愉快な思いをさせてしまった部分もある。コミュニケーションの問題で相手にどのような思いをさせるか考えられない場合がある。電話、窓口の対応にしても、課や職員によって質が違い、向上が今後の課題になる。年をとったり、顔を知ったりするとそういう礼を失する場合がある。田舎の役所の延長ではなく、洗練させていく必要がある。しっかり意見を受け止めながら、接遇の部分を上向きさせていきたい。ユネスコの審査に関わった韓国の大学の総長、就実大学の先生からは、朝鮮通信使は大変素晴らしく、世界文化遺産とするべきではないかというご意見をいただいている。縁地で連携してうまくいったらいいと思う。朝鮮通信使は、世界の歴史から見ても貴重であり、彼らが伝えた平和への思いを繋いでいきたい。御茶屋の跡も大切にしていかなければならないと思いはじめている。しおまち唐琴通りだけではなく、対馬などの縁地と連携して、観光客を迎えられたらいい。情報収集をしながらやっていきたい。来年は縁地のイベントを市で行うことになっている。また市民の方にはお世話になりたい。

- ・自分は 83 才だが、平成元年に牛窓にきた。長生きの環境には牛窓が一番いい。100 才以上生きて当たり前、盲腸と痔の手術以外は入院がしたことがない。こうした職員と市民の意見を率直に交換することは非常に素晴らしいこと。市長は、若くて、行動的。市民の間に入って来るといのは今までなかったことであり、評価したい。初めはうまくいかないかもしれないが、乗り越えてほしい。

(市長) 1 年目はうまくいかなかったが、2 年、3 年とつづけると顔が見えるようになる。人数が少なくても続けることが大事。これからも対話を恐れずに受け止め、謙虚に耳を傾けていこうと思う。

- ・伝統的な行事、精霊流しなど、だんだん見捨てられて行っている。長船、邑久と合併して、全体的なバランスとして、切り捨てられるかもしれないが、

**情操教育として必要ではないか。関町なら 90 軒 200 人から出てきて、先祖を送る行事に参加してくれる。それぞれの町の差をつけていくことも必要ではないか。**

(市長)まさに合併の弊害である。合併すると地域の個別事情は切り捨てられる。今考えているのが、まちづくり会議のなかで、地域の活性化、財政の問題もあるが、地域に分権していくところには、お金と権限を下すことを考えなければならない。そのなかで、精霊流しにはお金を付ける必要があるとかそういう話もでてくる。地域の中でのルールを決めていくことも考えている。ただ、その地域の単位を考えて行く必要はある。問題としては考えており、前向きに検討していきたいがもう少し時間がほしい。

**・来年の包括支援センターにはできるだけ、市の応援をしてぜひお願いしたい。  
我々福祉委員を中心として、どういったことができるか示してほしい。**

(市長)話はよく聞いている。福祉委員との連携が絶対に必要なので、今後ともよろしくお願いしたい。